

本資料は参考用です。
参加者ガイドは英語版が正式なマニュアルです。

デジタル公共インフラの相互運用性に関する 2026 年日欧ハッカソン

東京大学との共催
東京大学本郷キャンパス

欧州連合 - インド - シンガポール - 大韓民国 - 日本



INPACE プロジェクトは、国境を越えたデジタル ID とデータスペースの相互運用性のための実践的なソリューションを構築するため、欧州、日本、インド太平洋地域のイノベーションチームを集め、東京で実践的なハッカソン(2026 年 3 月 20 日～21 日開催、最終ピッチングセレモニーは 2026 年 3 月 26 日)を主催します。この取り組みは 2026 年の日欧デジタルウィークで集大成を迎え、優勝チームには最高レベルの機関での認知度と商業化への道が提供されます。

このガイドは、状況に応じて新しい情報で定期的に更新される予定であり、参加者に必要なすべての情報を提供することを目的としています。

オンライン登録

デジタルパイオニアの参加者の皆様、ようこそ！参加者は一般的なハッカソンを超える冒険に乗り出そうとしています。AI エージェント時代における、データスペースとデジタル公共インフラの相互運用性に関する 2026 年日欧ハッカソンは、単なるコーディングコンテストではありません。欧州とインド太平洋地域の 20 億人がどのようにデジタルサービスにアクセスし、身元を証明し、国境を越えて安全にデータを共有するかを形作るチャンスです。

なぜこれが重要なのか 次のような世界を想像してみてください：

- 日本の学生がヨーロッパの大学で学ぶための資格証明を瞬時に検証できる
- ヨーロッパの起業家がシンガポールでシームレスにビジネスアイデンティティを確立できる
- 患者が海外で緊急治療を必要とする際に、医療記録が国境を越えて安全に流れる
- 東京からパリまで、すべての段階で検証可能な出所を伴い、サプライチェーンが透明になる

これは SF ではありません。2026 年 3 月の 1 ヶ月間(東京での集中的な 2 日間を含む)で、参加者が構築を支援する未来です。

本イベントの他との違い 本イベントは以下のようなものではありません：

- 可能性について議論する理論的なワークショップ
- 実質よりもスライドを重視するコンペティション
- すべてを自分たちで解決するよう放置されるイベント

本イベントは以下のようなものです：

- 実用的なプロトタイプを構築、テスト、実証する実践的なスプリント
- CADDE、FIWARE、Gaia-X、GLEIF、MOSIP のワールドクラスのメンター、および業界リーダーとのコラボレーション
- 18 兆ユーロの EU 経済と日本のデジタルトランスフォーメーション、そしてダイナミックなインド太平洋地域を結びつける現実の課題を解決する機会
- グローバルなデジタル政策と標準を形成するための参加者の出発点

課題の理解：なぜ国境を越えた相互運用性は難しいのか

現在の状況 現在、デジタル ID とデータ共有システムはサイロ化して運用されています。欧州は 27 の加盟国に展開する eIDAS 2.0 フレームワークを持っています。日本はマイナンバーカードシステムを推進しています。インドは MOSIP で先駆的な役割を果たしています。シンガポールは Smart Nation 構想でリードしています。韓国は独自のアプローチで革新を進めています。すべて素晴らしいシステムですが、どれも互いに対話するには設計されていません。

その結果どうなるのでしょうか？ 摩擦、重複、イノベーションへの障壁、そしてこれらの地域を越えて働き、学び、旅行し、ビジネスを行う必要がある何億人もの人々にとっての機会損失です。

戦略的背景：数兆ユーロ規模の機会 INPACE プロジェクトは、EU とインド太平洋地域が互いを必要としているというシンプルな認識から生まれました。EU は、研究、イノベーション、技術展開、規制の調整、サプライチェーンの回復力のためのパートナーを求めています。インド太平洋諸国は、欧州の巨大市場、最先端の研究プログラム（日本が参加した Horizon Europe など）、および標準設定への影響力へのアクセスを望んでいます。

デジタルパートナーシップはすでに日本（2022 年）、韓国（2022 年）、シンガポール（2023 年）と存在し、インド（2022 年）とは貿易技術評議会（Trade and Technology Council）が存在します。しかし、ここに不都合な真実があります。政治家が協定に署名し、政策立案者が会議を開催する一方で、これらのパートナーシップを現実のものにする技術インフラストラクチャはほとんど存在していません。

参加者のソリューションを待っている 3 つのグローバルフレームワーク

1. 日欧デジタルパートナーシップ 2022 年 5 月に署名されたこの協定は、AI、量子コンピューティング、5G/6G、半導体、サイバーセキュリティ、そして極めて重要なデジタル ID の相互運用性について協力することを両当事者に約束するものです。2024 年 4 月には、デジタル ID とトラストサービスに関する協力覚書に署名し、相互承認を目指しています。しかし、相互承認は実際に機能する技術的な実装がなければ意味を持ちません。

2. 信頼性のある自由なデータ流通 (DFFT:G7) 2023 年の広島サミットで承認された DFFT は、主権、プライバシー、規制遵守を尊重する国境を越えたデータ交換を約束します。美しい原則ですが、ヨーロッパの GDPR、日本の APPI、そして韓国、シンガポール、インドの多様なフレームワークを同時に乗り越えるソリューションを必要とする、並外れて複雑な実行が求められます。

3. EU のグローバルデジタルパートナーシップ戦略 EU は二国間提携を結ぶだけでなく、ネットワークを構築しています。参加者のソリューションは、日欧の枠を超えて、シンガポールで発行された資格証明がストックホルムで検証され、韓国からのサプライチェーンデータがヨーロッパのデータスペースと統合され、トラストフレームワークがグローバルに拡張する多国間エコシステムを構想する必要があります。

参加者が埋めるべきギャップ

- **問題点:** 政策協力は急速に進展していますが、技術的な相互運用性が遅れています。
- **機会:** 標準が完全に設定される前に橋渡しを構築することができます。つまり、参加者のイノベーションが文字通り、世界的な政策に情報を提供するリファレンス実装になる可能性があります。
- **影響:** ここでの成功は、単に賞を勝ち取るだけではありません。それは、今後 10 年間のヨーロッパとインド太平洋地域の間でのデジタル協力がどのように進化するか、の最前線に参加者の仕事を位置づけるものです。

参加者のミッション: 相互運用性のパズルを解く

中心となる課題: 国境を越えたデジタル ID とデータスペースの相互運用性 その核心において、参加者はデジタルインフラストラクチャにおける最も困難な問題の 1 つに取り組んでいます。異なる基準に基づいて構築され、異なる規制によって管理され、異なる利害関係者によって運営されているシステムを、信頼、セキュリティ、プライバシー、主権を維持しながらシームレスに連携させるにはどうすればよいのでしょうか？

「データスペース」とは実際のところ何を意味するのか？ 疑問に思っている方のために説明すると、データスペースとは、組織が共通のガバナンスの枠組みと技術標準に基づいてデータを共有する分散型エコシステムです。これは集中型クラウドプラットフォームを超える次なる進化と考えてください。そこでは以下のようなことが行われます:

- 組織は自らのデータに対するコントロールと主権を維持します (巨大 IT プラットフォームに明け渡すことはありません)
- トラストフレームワークにより、誰が、どのような条件下で、何にアクセスできるかについての標準化されたルールが確立されます
- 相互運用性標準により、全員に同一のテクノロジーを強制することなく、システム間の統合が可能になります
- フェデレーテッド・アーキテクチャにより、データは分散されたまま維持され、必要なときに共有され、所有者によって管理されます

ヨーロッパは、製造、医療、モビリティ、エネルギーなどの分野でデータスペースを開拓しています。日本も、信頼性のある自由なデータ流通(DFFT)の枠組みなどの取り組みを通じて同様のコンセプトを開発しています。参加者の課題は、これらに対話させることです。

4つの技術的コア・フロンティア

1. **データスペース・コネクタの相互運用性: 基盤** ヨーロッパと日本のデータスペースアーキテクチャを互いに対話させます:

ヨーロッパのデータスペース・コネクタ:

- **Gaia-X フェデレーション・サービス:** 自己記述、参加者のための検証可能な資格情報 (Verifiable Credentials)、データ発見のためのフェデレーテッドカタログを備えたヨーロッパのトラストフレームワーク
- **IDSA (International Data Spaces Association):** 利用制御、データ主権の原則、コネクタ仕様を備えたリファレンス・アーキテクチャ・モデル
- **FIWARE Context Broker および コネクタ:** セマンティック相互運用性、時間的および地理空間的コンテキスト管理を備えた NGSI-LD ベースのデータ共有、および EDC や FIWARE データスペースコンポーネントを含む FIWARE データスペースコネクタ
- **Eclipse Dataspace Components (EDC):** IDSA の原則、ポリシーの施行、契約の交渉を実装するオープンソースのコネクタフレームワーク

日本のデータスペース・アプローチ:

- **CADDE:** 政府および産業セクター全体で連携したデータ交換を行うための日本のフレームワーク
- **Trusted Web プロジェクト:** 分散型のユーザー中心のデータ交換に対する日本のビジョン

参加者の課題: これらのシステムは、異なるトラストモデル、コネクタアーキテクチャ、メタデータ形式、ポリシー言語を使用しています。以下を可能にする橋渡しを構築します:

- EDC コネクタを使用するヨーロッパのメーカーが、CADDE を使用する日本のサプライヤーからデータを発見して消費する
- Gaia-X フェデレーテッドカタログが、適切なトラストチェーンの保持を伴って日本のデータスペース提供物をインデックス化する
- ヨーロッパの FIWARE Context Broker が、日本の IoT ネットワークからのリアルタイムデータフィードをサブスクライブする
- ポリシー翻訳: ヨーロッパの利用制御ポリシー (ODRL ベース) を日本のデータ取引契約にマッピングする

2. **セマンティック相互運用性とデータモデル: 国境を越えて意味を理解させる** 共有された理解のないデータ交換はノイズにすぎません。セマンティックの課題を解決してください:

ヨーロッパのセマンティック標準:

- **NGSI-LD**: JSON-LD リンクトデータ、エンティティ関係、時間的プロパティを持つコンテキスト情報のための ETSI 標準
- **DCAT-AP (Data Catalog Vocabulary)**: データセットのメタデータとカタログのための W3C 標準アプリケーションプロファイル
- **ヨーロッパスマートデータモデル**: 製造、農業、スマートシティ、モビリティのための 500 以上の標準化されたスキーマ

日本のデータ標準:

- **IMI (情報共有基盤)**: 政府のデータ交換のための日本の中核的な語彙
- **ドメイン固有の標準**: 自動車のデータ形式、製造プロトコル、物流メタデータ
- **業界主導の取り組み**: コンソーシアムによるセクター固有のデータモデル

参加者の課題: 日本の製造データ(部品仕様、品質指標、サプライチェーンイベントなど)をヨーロッパのスマートデータモデルにマッピングします。

- FIWARE Context Broker が CADDE のメタデータを理解できるようにし、またその逆も可能にする
- 概念が完全には一致しない場合(例: 日本の品質認証スキームとヨーロッパの標準)のオントロジーマッピングを作成する
- 多言語メタデータを処理する: 日本の説明がヨーロッパのシステムで発見可能になり、ヨーロッパのスキーマが日本の参加者に理解できるようにする

3. トラストフレームワークと Verifiable Credentials: 国境を越えた信頼の確立 データスペースでは、参加者が事前の関係なしに互いを信頼できることが求められます。信頼のインフラストラクチャを構築してください:

ヨーロッパのトラストメカニズム:

- **Gaia-X トラストフレームワーク**: 検証可能な資格情報、コンプライアンス検証、トラストアンカーを用いた参加者の自己記述
- **eIDAS 2.0**: 組織の資格情報、適格トラストサービスプロバイダを備えたデジタルアイデンティティウォレット
- **GLEIF vLEI**: 改ざん検知可能な組織の身元証明のための KERI (Key Event Receipt Infrastructure) を使用した検証可能な法的エンティティ識別子
- **EBSI APIs**: EU ベースのブロックチェーンソリューション用 API

日本のトラストモデル:

- **マイナンバーカード**: 適格な証明書を備えた政府発行の身元証明
- **民間のトラストプロバイダ**: 業界固有の身元証明および認証システム
- **ブロックチェーンベースの出所証明**: サプライチェーンの信頼性のためのパイロットプログラム

参加者の課題:

- Gaia-X の参加者検証で日本の組織の資格情報を受け入れられるようにする
- eIDAS の適格証明書を日本のトラストプロバイダにマッピングする
- 両地域で受け入れられる国境を越えた法的エンティティ識別のための vLEI を実装する
- 属性ベースのアクセス:ヨーロッパの企業が内部の詳細を明かすことなく「ISO 27001 認証取得済み」であることを日本のデータスペースに対して証明する。日本のサプライヤーがヨーロッパの税関システムに対して「認定輸出者」であることを証明する

4. ポリシーの施行と利用制御: 拡張性のあるガバナンス データ主権とは、データを共有した後でも、データ所有者が自らのデータがどのように使用されるかを制御できることを意味します。施行可能なポリシーを実装してください:

ヨーロッパのポリシー言語:

- ODRL (Open Digital Rights Language): 利用ポリシー、制約、義務のための W3C 標準
- XACML: ポリシーの決定/施行ポイントを備えた属性ベースのアクセス制御
- Gaia-X ポリシーフレームワーク: フェデレーションレベルのルール、参加者間の合意、コンプライアンス検証

日本のデータガバナンス:

- CADDE ポリシーモデル: データ利用制限に関する日本のフレームワーク
- 分野別規制: 業界固有のルール(自動車データ、医療、金融サービス)
- データ取引契約: 収益化されたデータ交換のための商業的条件

参加者の課題:

- ポリシー翻訳エンジン:ヨーロッパの ODRL ポリシー(「データは品質管理のみに使用可能、最大 30 日保持、第三者への転送不可」など)を日本のデータスペースコネクタで施行する
- 国境を越えたコンプライアンスの自動化:システムは、日本の製造データが EU の管轄区域に入ったことを検知し、自動的に GDPR の保持期限を適用し、監査のために処理をログに記録する
- 境界を越えた利用追跡:ヨーロッパの企業が日本のパートナーと生産データを共有し、システムが元の契約に従ってデータが誤用されなかったことを証明する
- 競合解決:ヨーロッパのポリシーが「6 か月後に削除」と指定しているのに対し、日本の分野別規制が「監査のために 7 年保持」を要求している場合、システムはデータ交換前にその非互換性をフラグ付けする

オプションの高度なフロンティア さらに追求したいチームのために:

ハイパフォーマンス・コンピューティング(HPC)の統合 膨大なデータセット、数百万件のトランザクションのリアルタイム検証、または複雑な暗号化操作を扱う場合、データスペースの運用をどのように加速させますか? HPC リソースを活用して、データスペースの拡張性を実証してください。例:

- ヨーロッパと日本の数百万のデータスペース提供物間におけるリアルタイムのセマンティックマッチング
- 大規模な Verifiable Credentials のための暗号化操作
- 連携コネクタ全体にわたる分散型ポリシー評価

データスペース運用に向けた AI によるインテリジェンス 機械学習をデータスペースの課題に適用します:

- 自動化されたスキーママッピング: AI がヨーロッパと日本のデータモデル間のセマンティックな対応関係を発見する
- 異常検知: ポリシー違反を示唆する疑わしいデータアクセスパターンを特定する
- スマートなデータ発見: 利用パターンに基づいて、ヨーロッパの要求者に関連するインド太平洋地域のデータセットを推奨する(またはその逆)
- コンプライアンス予測: ML モデルが、国境を越えたデータ交換の前に規制の互換性を評価する
- 契約交渉: AI エージェントが、ヨーロッパとインド太平洋地域のデータスペース参加者間で利用条件を交渉する

出所証明のためのブロックチェーンと分散型台帳 DLT(分散型台帳技術)を使用して、変更不可能な監査証跡を作成します:

- 日本の製造センサー → CADDE コネクタ → ヨーロッパのサプライチェーンデータスペース → 自動車メーカーへと流れるデータの出所を追跡する
- データ主権ポリシーへの準拠を証明する検証可能な利用ログ
- 地域間でのデータ取引の支払いを自動化するスマートコントラクト

参加者の現実世界への影響 参加者の 3 日間の成果は、データスペースの相互運用性を通じて 20 億人に影響を与えるデジタルパートナーシップを支援します:

製造業とインダストリー4.0

- ヨーロッパとインド太平洋のサプライチェーン: ドイツの自動車メーカーが、フェデレーテッドカタログを通じて日本の部品サプライヤーを発見し、データ共有契約を自動的に交渉し、リアルタイムの品質指標と生産状況を受け取る
- 予知保全: 日本の産業機器センサーが CADDE を通じてヨーロッパのアナリティクスプラットフォームと FIWARE 経由で運用データを共有し、国境を越えた予知保全サービスを可能にする
- サステナビリティ・コンプライアンス: インド太平洋から EU へ移動する製品が、EU のデジタル製品パスポートの要件を満たす検証可能な出所データ(材料調達、カーボンフットプリント、労働条件)を自動的に保持する

スマートシティとモビリティ

- 国境を越えたモビリティデータ:ヨーロッパの都市が、観光客向けの情報や統合されたモビリティサービスのために、交通パターン、駐車場の空き状況、公共交通機関のスケジュールを日本のスマートシティプラットフォームと共有する
- IoTの相互運用性:東京に展開されたセンサーが、大気質、騒音、群衆密度のデータをグローバルな研究のためにヨーロッパの環境モニタリングデータスペースと共有する

農業と食品

- 農場から食卓までのトレーサビリティ:日本の農業データ(農法、品質認証、収穫日)がデータスペースを通じて、透明性を求めるヨーロッパの小売業者や消費者に流れる
- 気候データの共有:ヨーロッパの気象および土壌データセットに日本の精密農業プラットフォームがアクセスでき、日本の作物のパフォーマンスデータがヨーロッパの農業の最適化に情報を提供する

ヘルスケアとライフサイエンス

- 研究データの交換:厳格なGDPRおよびAPPIコンプライアンスの下で、ヨーロッパの臨床試験データが日本の研究機関と共有され、同意管理が自動的に施行される
- 医療機器の相互運用性:標準化されたデータスペースインターフェースを通じて、日本の医療機器データがヨーロッパの電子健康記録システムと統合される

エネルギーとサステナビリティ

- スマートグリッドの調整:安定性管理のために、ヨーロッパの再生可能エネルギー生産予測が日本の送電網運営者と共有される
- カーボンアカウンティング:正確なカーボンフットプリントの計算とオフセット検証のために、サプライチェーンの排出量データが双方向に流れる

商業と貿易

- 中小企業の市場アクセス:ヨーロッパの中小企業がデータスペースのマーケットプレイスを通じて日本のパートナーを発見し、自動化されたコンプライアンスチェックとともに製品仕様と認証を交換する
- 物流の最適化:リアルタイムのサプライチェーンの可視化のために、日本の港湾からの出荷データがヨーロッパの物流データスペースと統合される

これはハッカソンで勝つことに関するものではありません。主権、プライバシー、および規制の遵守を維持しながら、国境を越えた数千億ユーロ規模のデータ経済を可能にするインフラストラクチャ層を構築することです。

技術要件:標準に基づくが、標準に縛られない

確立された標準に基づく構築 参加者のソリューションは、認められた標準を組み込む必要があります:

- eIDAS 2.0: ヨーロッパのデジタルアイデンティティ規制フレームワーク
- NGSI-LD: コンテキスト情報管理 (ETSI 標準)
- W3C Verifiable Credentials: 分散型資格情報フォーマット
- OpenID Connect: 認証レイヤー
- Gaia-X Trust Framework: フェデレーテッド・データ共有ガバナンス

オープンソースの推奨 オープンソースコンポーネントの使用を強く推奨します:

- 再現性: 他の人が参加者の作業を検証し、その上に構築できる
- 監査可能性: 信頼は透明性から生まれる
- 拡張性: オープンソースコミュニティは長期的なメンテナンスと進化を提供する

イノベーションの自由 以下は私たちが要求しないことです:

- パートナーが提供する特定のツールやフレームワークの使用
- 特定のプラットフォーム上での構築
- 特定のプログラミング言語でのソリューションの実装
- あらかじめ決定されたアーキテクチャの採用

参加者のソリューションが必要とするなら、ゼロから始めることもできます。標準要件は相互運用性を保証するためのものであり、それをどのように達成するかは完全に参加者次第です。

参加方法: ルール、チーム、および保持するもの

チームの結成: 柔軟性がルールです

単独のイノベーターも歓迎 参加するためにチームは必要ありません。個人で登録し、単独で作業することも(完全に許容されます)、ローンチイベントやリモート準備フェーズ中に協力者を見つけることもできます。最も革新的なソリューションのいくつかは、明確なビジョンを持った個人から生まれます。

自分のチームを連れてくる すでに協力者がいますか? 素晴らしいことです。適切なサポート、コミュニケーション、およびリソースへのアクセスを提供できるように、各メンバーが個別に登録することだけを確認してください。2~6人のチームが最もうまく機能する傾向があります。多様なスキルを持つのに十分な大きさでありながら、調整のオーバーヘッドを避けるのに十分な小ささです。

現地でのチーム結成 ローンチイベント(3月3日)およびリモート準備フェーズ(3月3日~19日)は、チームメイトを見つけるのに役立つよう特別に設計されています。スキル、関心、および相互に補完的な専門知識に基づいて、紹介を促進します。ハッカソンで優勝する多くのチームは、メンバーが相性と共有するビジョンで自己選択するため、このようにして形成されます。

国境を越えたコラボレーションの推奨 ヨーロッパ、日本、およびインド太平洋の参加者をミックスしてください。技術開発者とビジネス戦略家を組み合わせてください。データスペースのアーキテクトと規制コンプライアンスの専門家をペアにしてください。最高のソリューションは、複雑な問題と一緒に取り組む多様な視点から生まれます。

登録: 提出していただくもの シンプルな要件です:

- チーム名: 記憶に残るもの(プレゼンテーションで使用します)
- 各メンバーについて: 名、姓、メールアドレス、組織、国

これだけです。長々とした申請書は不要です。なぜ選ばれるべきかというエッセイも不要です。興味があるなら、あなたは招待されています。ロジスティクスの目的で、チームのすべてのメンバーが以下のリンクを使用して登録する必要があります。

知的財産: 参加者のイノベーションは参加者のものです 明確にしておきましょう。INPACE はいかなる IP (知的財産) も保持しません。このハッカソン中に参加者が生み出したすべての知的財産、コード、設計、ドキュメント、およびイノベーションは、完全に参加者に帰属します。これには以下が含まれます:

- ソースコードと実装
- 技術アーキテクチャと設計
- ビジネスモデルと商業化戦略
- ドキュメントとプレゼンテーション
- 参加者の仕事から生じる特許、著作権、その他の IP

参加形態: オンサイト(現地) vs リモート

オンサイト(現地参加・強く推奨) 東京に来ることで以下が提供されます:

- メンターへの直接のアクセス: 東京大学、FIWARE、NTT データ、INPACE のワールドクラスの専門家が現地に滞在します
- テクニカルデスク: 統合のデバッグなどをリアルタイムに行える専用のサポートステーション
- 高速インフラストラクチャ: 事前構成されたテストベッド環境、エンドポイント、および開発リソース
- 自発的なコラボレーション: 休憩中の非公式な会話から最高のアイデアが生まれることがよくあります
- ネットワーキングイベント: 潜在的な投資家、パートナー、および仲間のイノベーターとの夜のソーシャルギャザリング
- 没入型の体験: 同様の課題を解決しようとするチームに物理的に囲まれているエネルギーはかけがえのないものです

リモート参加(許可されますが、制限があります) 誰もが東京に旅行できるわけではないことは認識しています。リモートでの参加は許可されていますが、その制限を理解しておく必要があります:

- メンターシップはスケジュールされたビデオ通話やオンラインチャット(Slack)を通じて行われ、自発的な会話はありません
- テクニカルサポートは非同期で提供されるため、ブロッキング問題が発生した場合は遅延が生じます
- 多くのパートナーシップが形成される夜のネットワーキングイベントにはアクセスできません
- ステージ 1 の評価でリモートからプレゼンすることは、ライブデモを伴って対面でプレゼンするチームと比較して、不利な立場になります

私たちの推奨事項: 可能であれば東京にお越しください。経験と結果の違いは相当なものです。しかし、オーガナイザーとしては、リモート参加者にもスムーズな体験を楽しんでいただけるよう最大限の努力を尽くします。

完全なスケジュール

フェーズ 1: オンライン公式ローンチイベント

日時: 2026 年 3 月 3 日 時間: 10:00-12:00 CET / 18:00-20:00 JST

行われたプレゼンテーション:

- [01. Dataspace Hackathon Launch_Franck Le Gall.pdf](#)
- [02. Tokyo University welcome and details.pdf](#)
- [03. MVDS for INPACE Hackathon using FIWARE DSC.pdf](#)
- [04. VTT Data Innovation Lab.pdf](#)
- [05. MOSIP Inji.pdf](#)
- [06. ETSI NGSI-LD specifications and DCAT-AP mapping.pdf](#)

ウェビナーの録画もこちらで視聴可能です。

https://drive.google.com/file/d/1h7eEmIt0gagypGj-dIpX_6SQ5qZV6euR/view

フェーズ 2: オンライントレーニングウェビナー

日付: 2026 年 3 月 10 日 時間: 10:00-13:00 CET / 18:00-21:00 JST

ドメインの専門家によるプレゼンテーション

ビデオ録画/プレゼンテーションへのアクセス:

- *Greetings and the dataspace interoperability issue* from **Prof Noburu Koshizuka, University of Tokyo**
「挨拶とデータスペース相互運用性の問題」東京大学、越塚登教授
[video](#) - presentation
- “*How to Connect to the UTokyo Testbed VPN and Its Architecture*”, **University of Tokyo, Prof. Hirotsugu Seike**
「東大テストベッド VPN への接続方法とそのアーキテクチャ」東京大学、清家弘嗣教授
[video](#) - [presentation](#)

- “*Inji Wallet : seamless and secure management of verifiable credentials*”, **MOSIP, Swati Goel**
「Inji Wallet: 検証可能な資格情報のシームレスで安全な管理」MOSIP、Swati Goel 氏 [video - presentation](#)
- “*NGSI-LD and DCAT-AP as dataspace foundation*”, **EGM, Benoit Orihuela**
「データスペースの基盤としての NGSI-LD および DCAT-AP」EGM、Benoit Orihuela 氏 [video - presentation](#)
- “*DIL Data Space playground*”, **VTT, Kari Kolehmainen**
「DIL Data Space プレイグラウンド」VTT、Kari Kolehmainen 氏 [video - presentation](#)
- “*FIWARE Dataspace Components: enabling more powerful data spaces supporting monetization and access to applications, services and data from devices, robots, AI agents and end users*”, **Seamware, Juanjo Hierro**
「FIWARE Dataspace Components: デバイス、ロボット、AI エージェント、エンドユーザーからのアプリ、サービス、データへのアクセスと収益化をサポートする、より強力なデータスペースの実現」Seamware、Juanjo Hierro 氏 [video - presentation](#)
- “*Innovative Thinking : methods and tools to boost your project*”, **Yuliya Kharchenko**
「革新的な思考: プロジェクトを後押しするメソッドとツール」Yuliya Kharchenko 氏 [video - presentation](#)

フェーズ 3: ハイブリッド集中的スプリント(オンサイト中心)

日付: 2026 年 3 月 20 日~21 日(金曜日~土曜日) 時間: 13:00-20:00 JST(05:00-12:00 CET)

登録: オンライン登録リンク [online registration link](#)

会場: Openstudio, iii UTokyo

<https://openstudio-utokyo.com/access/>

<https://maps.app.goo.gl/uPGm2TLMctamM1an6>

〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学 B1F iii Main Building

施設:

- テーブル、高速インターネット、黒板を備えた、チームが共同で配置されるワークスペース
- ケータリングの提供(コーヒー、軽食、スナック)
- 東京大学、NTT データ、DSA、富士通、およびその他のサポート組織からのテクニカルデスク

デイリースケジュール:

- **3 月 20 日(1 日目):**
 - 13:00-14:00: オープニングセッション、参加チームリストの最終決定
 - 14:00-18:00: スタートアップセッション(各チームで 4 時間の作業)
 - 18:00-20:00: 中間プレゼンテーションとチューターからのアドバイス

- **3月21日(2日目):**
 - 13:00-13:10: 2日目のオープニング
 - 13:10-16:00: チューンアップセッション(各チームで約3時間の作業)
 - 16:00-18:00: 最終プレゼンテーション - 優秀3チームの選出
 - 18:00-20:00: ネットワーキングパーティー

アクティビティ:

- 最終統合、テスト、デモ準備に焦点を当てた集中的な開発
- 毎日のスタンドアップ、技術およびイノベーションのメンタリング、デバッグセッション
- EU・日本・インド太平洋のネットワーキングを促進する夜のソーシャルイベント
- リモート参加も許可されていますが、参加者の体験は制限されます

重要: 3月21日の最終プレゼンテーションの時間を除き、チームは自由に参加/退出できます。

フェーズ 4: 最終ピッチングセレモニー

日付: 2026年3月26日(木曜日)

時間: 12:45-13:45 JST

登録: [オンライン登録リンク](#)

会場: 駐日欧州連合代表部(東京)

形式: 日欧デジタルウィーク 2026 でのピッチセッション

プログラム:

- 開会挨拶 - 10分
- 3チームからのピッチ - 3×10分のプレゼンテーション
- 一般投票および審査員の非公開審議 - 10分
- 授賞式 - 10分

フェーズ 5: イベント後の拡大(アンプリフィケーション)

イベント後、優勝者は以下の恩恵を受けます:

- INPACE バーチャルフェア(FrameVR環境)でのソリューションのプレゼンテーション
- INPACE の専門家コミュニティ内での公開
- 優勝チーム(1~2名の代表者)による、ブリュッセルで開催される最終 INPACE イベント(2027年上半期)での登壇枠の検討

2段階の評価プロセス

ステージ 1: 技術評価と上位3チームの選出

日時: 2026年3月21日(土)、16:00-18:00 JST(オンサイトプリントの終了時)

形式: 1チームにつき10分間のピッチプレゼンテーション 要件:

- 16:00 までにアップロードされる資料(スライドデッキ、ビデオ録画など)
- チームによって実行されるライブプレゼンテーションとデモンストレーション

評価基準:

基準	比重	説明
相互運用性	30%	EU-インド太平洋のデータスペースおよびデジタル ID システム全体でのエンドツーエンドの相互運用性の実際の実証
信頼とセキュリティ	20%	管轄区域を越えたデータ主権の維持。プライバシー・バイ・デザインの実装。サイバーセキュリティのベストプラクティスとコンプライアンス対応
現実世界への影響	20%	真の国境を越えたデータスペースの利点に対処しているか。EU-インド太平洋地域の市民に貢献する可能性。行政サービス、医療、または商業における測定可能なメリット
実現可能性とプレゼンテーション	20%	明確な実装ロードマップと現実的なタイムライン。ピッチとデモンストレーションの品質。チームのコラボレーションとプロジェクトの実行
技術的卓越性	10%	堅牢なアーキテクチャとスケーラブルな設計。実装とコードの職人技の品質。統合の複雑さ-多様なシステムを橋渡しする能力

審査員団: 標準化の専門家、テクニカルアーキテクト、および業界の実務家を含む専門家評価パネル
 結果: 技術的なメリット、イノベーション、および実装の品質に基づいて選出された 3 チームのショートリスト

ステージ 2: グランドフィナーレ-グローバルステージでのプレゼンテーション

日時: 2026 年 3 月 26 日(水) 13:00-15:00 JST

会場: 駐日欧州連合代表部(日欧デジタルウィーク 2026 開催中)

聴衆: ここはもうハッカソンの部屋ではありません。参加者は以下の方々に向けてプレゼンテーションを行います:

- EU および日本の政府高官
- 主要企業の業界リーダー
- インド太平洋での機会を積極的に求めている投資家
- 日欧デジタルウィークを取材するメディア
- 学術研究者および政策専門家

形式:

ファイナリスト 1 チームにつき 10 分間のプレゼンテーション(時間を守ってください。10 分で止められます) 参加者はソリューションが機能することを証明しました(ステージ 1)。次は、それが重要であり、参加者がそれを前進させるチームであることを証明してください。

プレゼンテーションの要件:

10 分 - 厳格に時間を守ってください;

- エンドツーエンドのユーザージャーニー: 開始から終了までの完全なユースケースを説明する
- 技術的な詳細: アーキテクチャ、標準の統合、相互運用性の課題をどのように解決したかを説明する
- ライブデモンストレーション: リアルタイムで機能することを証明する(接続が失敗した場合に備えてバックアップビデオを用意する)
- ビジネスモデルと商業化戦略
- 影響評価とスケーリング計画

評価基準:

審査員(70%) + 一般投票(30%)

審査員と聴衆メンバー(日欧デジタルウィークの参加者)は、以下に基づいてお気に入りのソリューションに投票します:

- ピッチの明確さ
- 認識される影響
- イノベーション
- チームの情熱とコミットメント

得られるもの: 賞、表彰、および機会

大賞: 旅行とショーケースの機会 優勝チームはトロフィーを得るだけではありません。国際的な舞台上でソリューションを提示するためのプラットフォームを得ます:

- チームが主にインド太平洋諸国(日本、韓国、シンガポール、インドなど)からの場合:
 - 代表者がヨーロッパの主要なイベントでのプレゼンに招待されます
 - 候補となる会場: ブリュッセルでの最終 INPACE イベント(2027 年上半期)
- チームが主に欧州連合からの場合:
 - 代表者がインド太平洋の主要なイベントでのプレゼンに招待されます
 - 候補となる会場: 日本、韓国、シンガポール、またはインドの注目度の高いテクノロジーおよび政策カンファレンス

全額費用負担: フライト、ホテル、カンファレンス参加費

特別賞: Build for Earth アクセラレーションプログラムへの参加 Build for Earth は、ハッカソンで優勝したチームがアイデアから具体的な現実世界での実装へと移行するのをサポートするために、Hack For Earth Foundation によって特別に設計された 6 か月のデジタルアクセラレーションプログラムです。これは共通の課題に対処するために作成されました。強力なハッカソンのソリューションはイベント後に勢いを失うことが多く、チームはイノベーションからインパクトへと移行するための構造化されたサポートを必要としています。Hack For Earth の代表者によって最大 2 つの受賞者がプログラムに参加するために選ばれる可能性があります。

テクニカルリソースとテストベッド

連絡先情報

INPACE プロジェクト調整チーム

- Kseniia SAVCHENKO: ksavchenko@group-gac.com

現地ホスティングチーム(東京大学および DSA)

- Naho KITANO: naho.kitano@koshizuka-lab.org

非同期 Slack チャンネルおよびハイブリッド接続用リンク

登録時に登録チームと共有されます